

今、何の病気が流行しているか！

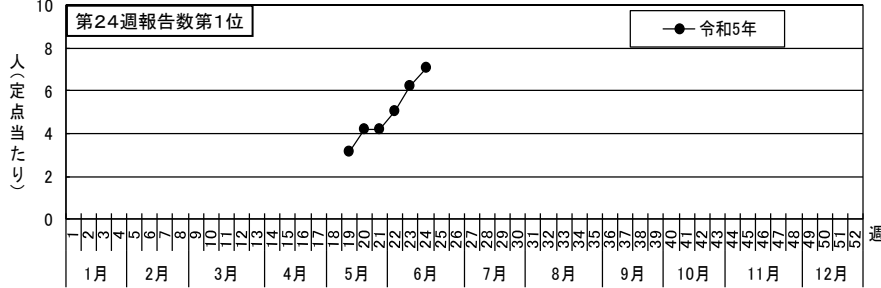
【感染症発生動向調査事業から】

令和5年6月12日（月）～令和5年6月18日（日）〔令和5年第24週〕の感染症発生状況

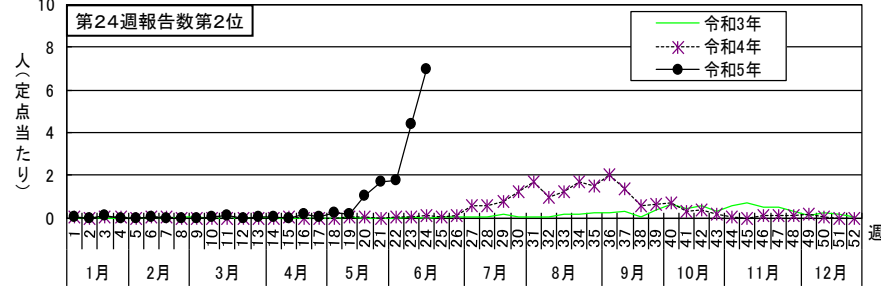
第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) ヘルパンギーナ 3) 感染性胃腸炎でした。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.07人と前週（6.21人）から増加しました。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は6.95人と前週（4.41人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.19人と前週（6.86人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



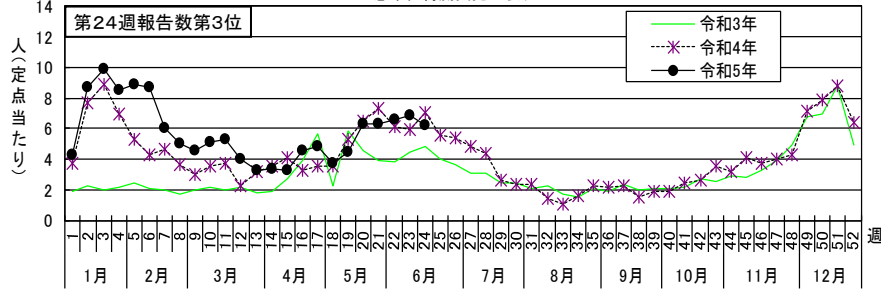
新型コロナウイルス感染症発生状況



ヘルパンギーナ発生状況



感染性胃腸炎発生状況

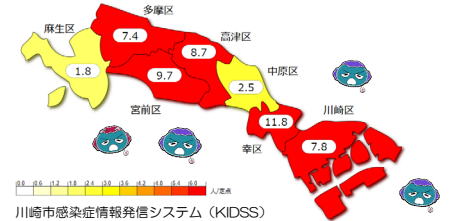


ヘルパンギーナの流行発生警報が発令されました！

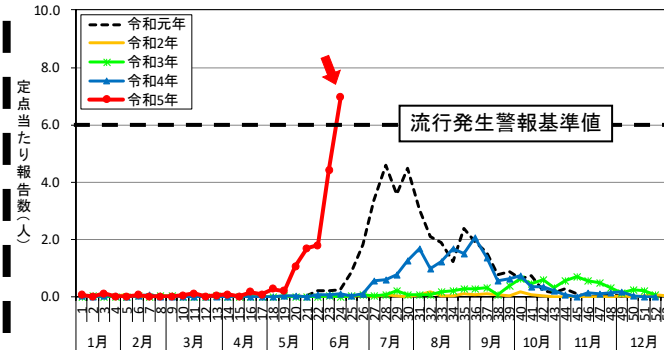
川崎市における令和5年第24週（6月12日～18日）のヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は6.95人と、5週連続で増加し、平成28年以来7年ぶりに流行発生警報基準値（定点当たり6.00人）を超えました。区別では、7区のうち5区で基準値を超えており、幸区が最多となっています。

ヘルパンギーナの主な症状は、突然の高熱（38～40℃程度）や咽頭痛、のどの奥の水疱や潰瘍です。予後は比較的良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎、脳炎等を合併する場合があります。小児が集団で過ごす保育園等では、タオルやおもちゃの共用を避け、おむつ交換後の排泄物は適切に処理を行い、手洗いを徹底して感染の拡大を防ぎましょう。

川崎市におけるヘルパンギーナ分布マップ(第24週)



川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況(5年間)



ヘルパンギーナの予防対策

流水と石けんで十分に手を洗う。



タオルやおもちゃの共用は避ける。



おむつ交換の際には排泄物を適切に処理する。